

傾斜均平作業マニュアルを作成しました

— 機械導入から作業方法まで —

I 水田の傾斜均平

- 1 はじめに
- 2 作業手順
作業手順の実例
- 3 使用する機械
 - (1) レーザーレベラー
 - (2) 傾斜均平化の作業性
- 4 傾斜均平工法
 - (1) 牽引式レーザーレベラー
 - (2) 直装式レーザーレベラー
 - 1) 一般工法
 - 2) 二段階工法
 - 3) スパイラル工法
 - (3) 傾斜均平作業の終期の目安

II 傾斜均平の効果

- 1 灌水促進効果
- 2 排水促進効果
- 3 傾斜均平状態の持続性

III ほ場傾斜均平化の作業時期

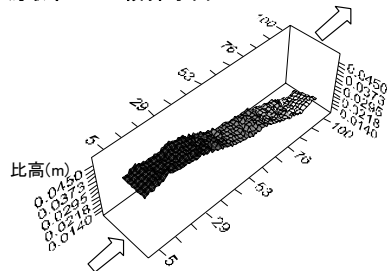
IV 傾斜均平作業の経済性

参考文献

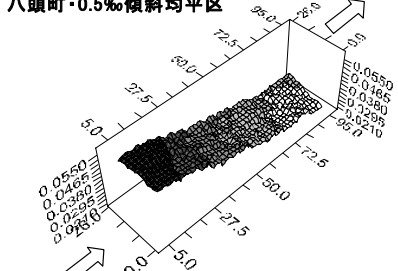


○1度整備した田面の傾斜均平状態は、3作終了時まで維持される。

鳥取市・0.2%傾斜均平区



八頭町・0.5%傾斜均平区



八頭町・0.2%傾斜均平区

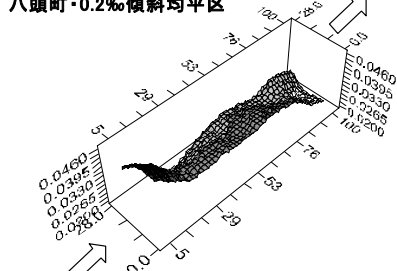


図1 田面の傾斜均平状態の持続性(3作後)

○レーザーレベラーの作業性能の目安を確認した。

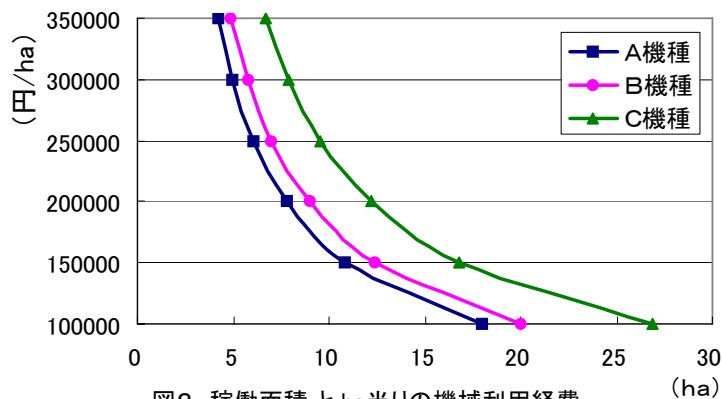
表1 傾斜均平に関連した主要作業機の作業能率

作業名	機械名	作業幅 (m)	作業速度 (km/hr)	ほ場作業効率 (%)	ほ場作業能率 (hr/ha)
前作物残渣処理	スタブルカルチ	2.10	5.0	70.0	1.36
反転耕	プラウ	1.49	5.0	70.0	1.92
傾斜均平	レーザーレベラー	4.14	5.9	12.4	3.31

注1)トラクターは85ps級を想定した。

2)作業能率は、傾斜均平の現地施工事例、その他は作業能率関連指標（「鳥取県農業経営指導の手引き（農業機械関係資料）」）等を参照した。

○経済性からみた利用規模の下限面積を試算した。作業受託料金をha当たり350,000円として試算すると、約4.2ha~6.7haとなる。



A: 65psトラクタ+3.2mレーザーレベラー B: 85psトラクタ+4.1mレーザーレベラー
C: 100psトラクタ+4.1mレーザーレベラー

(問い合わせ先) 担当者 水田基盤研究室 研究員 三谷、岡本
電話 0857-53-0721

※本書から転載・複写する場合は、必ず農業試験場の許可を受けてください。